

神 経 内 科 学

【単位数：1単位，授業18コマ，予備2コマ（定期試験含まず）】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

熱田直樹 教授（神経内科）

2 教育目標

（1）ねらい（Ⅲ-3-b，Ⅲ-4-b，Ⅲ-5-b）

- ① コンピテンス“医学知識と科学的探究心”の獲得を学修の本流として，神経内科領域で求められる知識，技能，態度を修得する。この学びを通して広い学修視野を持ち，包括的に他のコンピテンス涵養にもつなげる。
- ② 脳・神経系の構造並びに系統的機能を理解し，主な神経系疾患の病因，病態生理，症候，診断，基本的治療を縦断的に学ぶ。その学修過程において，これまで症候学・臨床診断学で修得した横断的知識との融合を図り，幅広く柔軟な，客観的事実・根拠に基づく論理的思考の獲得に務める自律的学習態度を身につける。

（2）学修目標

- ① 各神経系統とそれらの機能について説明できる。
- ② 主要な神経電気生理学的検査を列挙し，正常所見及び基本的な異常所見について説明できる。
- ③ 主要な神経系画像検査を列挙し，正常所見及び基本的な異常所見について説明できる。
- ④ 運動ニューロン病の病因，症候，検査所見，診断と治療を説明できる。
- ⑤ Parkinson病及び錐体外路系関連疾患の病因，症候，検査所見，診断と治療を説明できる。
- ⑥ 脊髄小脳変性症及び多系統萎縮症の病因，症候，検査所見，診断及び治療を説明できる。
- ⑦ 不随意運動の種類，病態，症候，原因疾患，検査所見，診断と治療を説明できる。
- ⑧ 高次脳機能障害，認知症を呈する神経疾患の病因，症候，検査所見，診断と治療を説明できる。
- ⑨ 末梢神経障害の病態，症候，原因疾患，検査所見，診断と治療を説明できる。
- ⑩ 多発性硬化症その他の中枢神経脱髄疾患の病態，症候，検査所見，診断と治療を説明できる。
- ⑪ 重症筋無力症及び関連疾患の病態，病因，症候，検査所見，診断と治療を説明できる。
- ⑫ 筋ジストロフィー，筋炎の病態，病因，症候，検査所見，診断と治療を説明できる。
- ⑬ ミトコンドリア病の病態，病因，症候，検査所見，診断と治療を説明できる。
- ⑭ 中枢神経系感染症の病態，病因，症候，検査所見，診断と治療を説明できる。
- ⑮ 内科疾患合併症としての神経障害の病態，臨床像，検査所見，診断と治療を説明できる。
- ⑯ 頭痛，半側顔面筋けいれん，三叉神経痛の臨床像，診断と治療を説明できる。

3 成績の判定・評価

（1）総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100%	マークシート式，記述式を組み合わせた試験とする。
態度	○	—	態度不良の場合は，総合成績から10点を限度に減点をする。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

（2）合格基準

評価対象の合計が60%以上（又は60点以上）で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

評価対象項目が60%未満の場合は、再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する(60%以上で合格)。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

定期試験の成績に鑑み、各自が自己学習で作成した神経疾患に関するまとめの文章を振り返り、理解が不十分な項目について再学習を行うとともに、定期試験で不合格となった者は再試験に備える。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
病気がみえる (vol.7) 脳・神経	医学情報科学研究所編	医療情報科学研究所	図が多く視覚的に脳・神経疾患の基本が理解できる。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
内科学第12版	矢崎義雄 総編集	朝倉書店	内科学教科書としては標準。
神経内科ハンドブック	水野美邦 編	医学書院	神経内科学書としては標準。
脳血管障害の画像診断	高橋昭喜 編	中外医学社	脳卒中画像診断の勉強に使える。
脊椎・脊髄のMRI	前原忠行 編	南江堂	脊髄の構造, 病像を勉強するに使える。
誤りやすい異常脳波	市川忠彦	医学書院	基本的脳波の勉強に使える。

6 準備学習(予習・復習)

- ① 予習(授業前日が望ましい):「7 授業計画(3)開催日時」に記載されている各時限の講義タイトルを確認し、参考図書で検索して通読する(1コマあたり0.5時間目安)。
次に、この病態・疾患(群)等を理解する上で前もって学習すべき事項として想起される課題を抽出し、該当する参考図書で検索し、内容を確認しておく(1コマあたり0.5時間目安)。
- ② 復習(授業後当日が望ましい):授業中に書き留めた講義ノート及び配付資料を再確認しつつ講義内容を反芻し、その時限で学修した病態・疾患(群)等について、論理、要点を押さえた300文字程度の解説文章を作成する(1コマあたり1時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

大教室での知識伝達型講義を基本とするが、原則、講義終了毎に学修内容復習・グループ討議/病態・疾患(群)の解説文章作成などの自己学習を求める。

(2) 講義の内容

原則、2 教育目標の(2) 学修目標に挙げたコンピテンシー毎に時限を区切り講義を行う。講師は論理に基づいた丁寧な解説を重視しており、各授業で説明される膨大な情報を系統的に整理して、要点を押さえつつ理解できるように配慮されている。